

令和3年度 事業報告書

I. 事業の概要

公益法人として第10期となる令和3年度は、

公1. 奨学金事業として

(1) 県内在住17名の高校奨学生に奨学金を給付した。

(2) 奨学生同士の交流を深めるため懇親会を2回開催した。

公2. 奈良県立橿原考古学研究所に対する学術研究の為の書籍の寄贈は休止

公3. 公益財団法人京都大学 iPS 細胞研究財団に研究助成金の寄付をした。

II. 事業活動

公1. 奨学金事業

(1) 新採用の6名を含めて計17名の高等学校奨学生に月額3万円を給付した。

(2) 奨学生同士の交流を深めるため懇親会を2回開催した。

《第1回》

文書による意見交換参加者 在学奨学生17名・卒業生16名・役員等13名 計46名

・夏の懇親会は、8月22日(日)開催の予定であったが、コロナ感染の急な拡大により開催は中止し、その代わりとして、在学奨学生と奨学生の卒業生に修徳会の役員等関係者が加わり、在学奨学生から提案され多数決で選ばれた「日本の報道についてどう思いますか?」と「コロナが終わったら一番したいこと」等について、文書による意見交換を行った。文書は、『夏の懇親会中止にあたり』を表題とし、各3部構成にして作成。各々に送付した。

《第2回》

令和4年3月26日(土)開催 在学奨学生12名・卒業生9名 / 計21名参加

・当日は、三密を避け、消毒やマスクをし、アクリルの仕切りも設置した上で、恒例の参加者全員での自己紹介を開始した。午後からの話し合いについては、開催前に奨学生からメールで寄せられたテーマ候補の中から、当日、社会的なテーマを多数決で1個を選択し、それについて一人一人が自分の意見を述べ、その他のテーマについては、スタイルを変えて話し合った。前回はコロナ感染で集まることができなかったことから、「皆で会って話す大切さと楽しさ」を実感できたように思われた。

公2. 奈良県橿原考古学研究所へ学術研究の為の書籍寄贈は休止

公3. 公益財団法人京都大学 iPS 細胞研究財団に研究助成金の寄付をした。